

## 第3回「玉来ダム検証における検討の場」会議 議事要旨

平成23年2月4日(金) 13:30~15:10

竹田総合庁舎 3階第一会議室

### 【出席者】

小松座長、川野委員、中野委員、三宅委員、足立委員、菅委員、後藤(泰)委員、丹委員、早川委員、甲斐委員、渡邊委員、後藤(万)委員、工藤委員[代理出席：大塚]、吉田委員、恵藤委員[代理出席：大野]、児玉(修)委員、畑元委員[代理出席：黒田]、阿南委員、児玉(龍)委員、進委員、山本委員

### 【議事要旨】

#### 1) 「第2回検討の場」における討議内容の確認について

前回議事要旨について確認し、了承された。

前回の討議結果による主な修正点を整理した資料を提示し、この結果をもってパブリックコメント等を実施した旨を報告した。

#### 2) 玉来ダム事業等の点検について

玉来ダム事業等の点検結果について事務局より説明し、了承された。

ここでの質問等については、後述4)にあわせて記載する。

#### 3) 玉来ダム検証について

パブリックコメント等による意見聴取結果について

関係地方公共団体の長等からの意見聴取結果について

、 の意見募集等の概要や意見聴取結果について、事務局より「資料-4」のパワーポイント及び「資料-5」の配布資料を用いて説明した。

) 意見募集の方法としては、第2回会議にて説明した3手法(パブリックコメント、関係地方公共団体の長からの意見聴取、学識経験者からの意見聴取)のほかに、地域住民からの意見聴取を行なったことを説明した。

) 意見聴取結果の概要としては、下記のとおりとなったことを説明した。

県民意見募集(パブコメ) : 4人(8件)

地域住民からの意見聴取 : 53人(92件) と の延べ意見総数 : 57名(100件)

関係地方公共団体の長からの意見聴取 : 1人(竹田市長に実施)

学識経験者からの意見聴取 : 2人(植物と魚類の専門家に実施)

(参考) 委員からの意見聴取 : 9人(第2回会議後に実施)

#### 4)ダム事業等の点検及びパブリックコメント等の内容に対する討議

2) や 3) の 、 について、各委員から以下の意見・質問があった。

<玉来ダム事業等の点検について>

- ・学識経験者から「堆砂計画時にSSを確認しているか」などについての質問があった。
- ・地域関係者から「ダムの漏水」や「ダムができた場合の流木」、「ダム湖内の樹木伐採の有無」についての質問があった。

<事務局の回答>

- ・質問については、SSは堆砂シミュレーションに考慮していることやダム及び貯水池の漏水対策についても調査・検討が十分行われていること、流木はダムで受け止める対策を検討すること、ダム湖内の立木について、自然環境や維持管理の面から伐採の有無を今後検討していくことなどを回答し、理解を求めた。(学識経験者から通常は伐採しなくて良いとの意見があった。)

<パブリックコメント等の内容について>

- ・地域関係者から反対意見が3件でているが、これは平成2年7月洪水を経験していない方の意見ではないかとの意見があった。
- ・座長から反対意見へは「この検討の場で議論したことが回答になると考えられる」との意見があった。
- ・学識経験者から県として「頂いた意見へ回答するのか」との質問があった。

<事務局の回答>

- ・頂いた意見への回答について、「パブリックコメント」は正式に回答を大分県HPや縦覧で行なうことや、地域へは回答を回覧することなどを説明し、了解された。

#### 5)最適な治水対策案についての評価について

各委員の意見・関係地方公共団体の長等からの意見及びパブリックコメントなどの内容を踏まえ、第2回「検討の場」にて了承された7評価軸による総合評価及び順位付けに対して変更修正が無いことを確認し、委員の総意として、現行の「玉来ダム案+河川改修(済)」を最適と結論づけた。

座長より、「検討の場」を通しての要望として、次の3点について示された。

- ・玉来ダムは、流水型ダムで将来の気候変動に有効と考えられるため、H2.7洪水等で発生した土砂による天然ダム崩壊時の段波を受け止め得る構造となるような検討をしていただきたい。
- ・流水型ダムは普段は普通の川と変わらないが、洪水時を考えると減勢工などの構造物が必要となる。したがって、魚の遡上や土砂などの流下に配慮できるように最新の知見による検討をしていただきたい。
- ・流水型ダムは、通常はダム湖に水が貯まっていないため、管理用道路やアクセス道路を検討する際には、受け止めた流木や土砂を早急に撤去できるように配慮をしていただきたい。

事務局より、「検討の場」以降、国への報告までのスケジュールについて説明した。